

Toupenets. pp. 642~643

Saving of raw materials in the iron and steel industry. *L. L. Zusman*. pp. 644~650

Automatic combustion control of compound mixtures in the metallurgical units of plants.

A. Ia. Lerner. pp. 651~655

The development of watch spring production.

V. V. Kryzhanovsky. pp. 656~657

Evaporation cooling of the open-hearth furnaces

S. I. Moiseevich. pp. 658~662

Manufacturing of the rolls with cast passes.

A. E. Krivosheev, et alius. pp. 663~662

国内最近刊行誌参考記事目次

—学協会誌—

日本金属学会誌 **21** (1957) 10

Heat-Checking に関する研究 (Ⅳ) 鍛造比および繊維方向の影響. 藤原達雄...573~576

18-8 ステレンス鋼線の機械的性質について (Ⅰ) 成分 Ni 量の影響 (Ⅰ) C 含有量の影響. 渡辺統市, 他...583~587, 602~606

鋼材における超音波減衰と残留応力 (Ⅰ) 特に冷却応力を受けた丸棒の減衰 (Ⅰ) 特に引張試験における減衰. 高沖 亮...589~597

— **21** (1957) 11

クロム鍍金に関する研究 (Ⅰ) 鍍膜硬度の偏在について. 安房信輝, 他...625~628

アルミニウム被覆鋼に関する研究 (Ⅷ) アルミニウム被覆鋼の高温酸化におよぼす浴組成と素材化学成分の影響について. 嵯峨卓郎, 他...636~640

ひびわれ疵防止に関する研究 (Ⅱ) 酸化による鋼材表面組織の変化とひびわれ疵発生機構. 大竹 正, 他...640~644

鋼の繊維状組織について (Ⅲ) 熱膨脹計による方向性の検討. 矢島悦次郎, 他...644~647

黒鉛鋼に関する研究 (Ⅴ) Fe-C-Si 系黒鉛鋼の熱処理 (Ⅰ). 佐藤知雄, 他...648~651

クリープ初期における過飽和空孔の挙動について. 大原秀晴...655~658

鉄鋼中の炭化物の電解分離による研究 (Ⅷ) タングステン鋼中の炭化物について. 佐藤知雄, 他...662~665

Ti-Fe-C 三元系平衡状態図の研究 (Ⅰ)(Ⅰ). 村上陽太郎, 他...665~673

鑄物 **29** (1957) 11

鋼心鑄鉄の製造の研究 (Ⅵ) 鑄込み温度の影響について. 白井太一郎, 他...755~757

鑄鉄熔湯におよぼす温度の影響. 加山延太郎, 他...757~763

減圧熔湯に伴う鑄鉄熔湯の性状変化. 佐藤忠雄, 他...764~771

マグネシウム処理鑄鉄の凝固過程. 大平五郎, 他...772~781

キューボラ熔解による或る種の Ti 含有鉄の効果について. 浜田繁之...781~791

熔接学会誌 **26** (1957) 12

高張力鋼熔接変質部の冷却状況と顕微鏡組織および硬度 (Ⅰ). 関口春次郎...752~657

鉄の低温脆性に関する一考察. 渡辺正紀...758~763

材料試験 **6** (1957) 51

高張力鋼棒を用いた PC 桁の亀裂荷重と疲労強度. 小西一郎, 他...771~776

燃料協会誌 **36** (1957) 10

石炭・コークス類の分析と試験法. (特集号)

熱管理 **6** (1957) 9

酸素と製鋼法. 岩村英郎, 他...5~10

分析化学 **6** (1957) 11

ヨウ素アルコール法による鉄鋼中の非金属介在物定量法. 前川静弥, 他...715~719

—研究機関誌—

生産技術研究所報告 **6** (1957) 7

1トン試験高炉の操業について. 金森九郎, 他...284~352

東北大学研究所報告 **9** (1957) 6

New Oxidizing Method for Revealing Austenitic Grain. *Y. Imai, et alius*...467~475

Diffusion of Sulfur in Liquid Iron (II). *Y. Kawai*...520~526

Studies on the Hydrated Iron Oxides (II)(III). *M. Nambu*...534~537

名古屋工業大学学報 **No. 9** (1957)

工具鋼の焼成軟化抵抗性におよぼす焼入温度および保持時間の影響. 矢島悦二郎, 他...215~219

—会社刊行誌—

製鉄研究 **No. 220** (1957)

全連続式線材圧延工場の建設ならびに操業について. 大宰三郎, 他...1707~1712

線材圧延作業上の二、三の実験的考察。原田利夫…
1713~1723

線材々質におよぼす圧延方式の影響。大竹 正、他…
1724~1734

富士製鉄技報 6 (1957) 4

コークス比におよぼす送風温度の影響について。沢村
惇、他…367~372

広畑熔鉱炉の第4次改修について。楠野桂三…373~
386

平炉製鋼過程における鋼中窒素の挙動。伊藤幸良、他
…387~397

セミキルド鋼厚板のパイプにおよぼす製鋼均熱各作業
条件の影響について。野田郁也、他…398~411

住友金属 9 (1957) 3

低炭素キルド鋼のオーステナイト結晶粒の調整につい
て。田上豊助…140~142

ピアサーにおける材料の Metal Flow。三瀬真作、他…
…143~157

日立評論 39 (1957) 11

JIS 耐熱鋼 SEH 1, SEH 2 および SEH 3 の熱処理
と高温強度について。小柴定雄、他…1322~1326

三带式均熱連続加熱炉の設計と実際。吹野晋策、他…

ベアリングエンジニア 6 (1957) 2

軸受鋼焼入状態の強さの考察 (2) (3)。室 博…839~
~851

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼業界に於ける発明

- | 公告番号 | 発 明 の 名 称 | (発明者) 出願人 |
|-----------|---|--|
| | 特許出願公告 (昭和 32—10—24) | |
| 昭 32—9054 | 殊にラテライト状の鉄鉱からケム少き鋼を製造する方法 | (ウィルヘルム・ウォルフ外1)
ウエスフアーレンヒュッテ・アクチエンゲゼルシャット (独) |
| | クロムを含有するラテライト状鉄鉱を高炉中で溶解しその銑を通常の平炉又は転炉製錬法により精錬するに当り、クロム含有銑を生成銑のクロムが 0.2% 以上、マンガン 0.8% 以下及燐通常量、硅素通常量又はそれ以上なる如くに他の鉄石と混銑し、この銑を予備精錬して、クロム含有量を 0.1% 以下に低下せしめ次ぎにこの脱クロム銑を通常の精錬に付する方法。 | |
| 昭 32—9055 | 銑鉄を酸素で精錬し純鉄を製造する方法 | (ルドルフ・リネシュ(独) 日本鑑管 K.K.) |
| | 転炉内の溶湯上に酸素を吹送し銑鉄を精錬するに当り、精錬工程の間とくにその終了前において、石灰石もしくは冷態のスラグ等のごとき冷態スラグ形成物質を賦与してスラグの温度を湯の温度以下に保持する方法。 | |
| | 特許出願公告 (昭和 32—10—30) | |
| 昭 32—9203 | 含ゲルマニウム鉄鉱石より銑鉄を製造すると同時にゲルマニウム分を回収する方法 | (清廉平外1) 工業技術院長 |
| | ゲルマニウムを含む鉄鉱石に石膏、芒硝またはその他の金属硫酸化物あるいはその他の硫化物の中4種または2以上を加え、還元気中で加熱焙融し銑鉄を製造すると同時に生成する揮発成分を冷却しゲルマニウム分を回収する方法。 | |
| | 特許出願公告 (昭和 32—11—5) | |
| 昭 32—9301 | 可鍛鑄鉄の製造法 | (久保 要) 同 人 |
| | 加熱密閉容器中で白銑鑄物を 900~950°C に加熱し該温度を維持し器内圧力を一旦大気圧に戻して密閉しこれに水性ガスと KNO ₃ との混合ガスを 4~10 気圧で一定圧を連続的に供給すると共に容器内部の脱炭された混合ガスを排出して新陳代謝せしめこれを数時間継続してその間に常時炉内を前記温度と圧力とで一定に維持せしめその後炉内を密閉して 500~650°C で短時間焼鈍せしめる方法。 | |